

**答** 北宇和病院は平成8年度建築の建物であり耐震基準には適合しており、敷地の地盤も硬く液状化現象の起こる可能性は無いということである。

また、愛媛県の指定する土砂災害指定箇所には該当していないが、病院の両側には三間川と奈良川の両河川があり、水害の対応については充分検討しておく必要があると考えている。なお、非常用自家発電設備は、屋上に2台設置している。

また、今後予想される東南海・南海地震に対する地震防災対策のより一層の推進を図るため、今回発生した東北地方太平洋沖地震の課題を参考にし、現在の防災マニュアルを見直しする方向で、旭川荘とともに検討を進めたいと考えている。

#### ◆横山 二郎 議員

**【本町の取り組みの諸点について】**

**問** 職員の人材育成について

**答** 職員の育成については、鬼北町人材育成基本方針に基づき、自己啓発、職場研修および研修施設等での職場外研修などの研修を行っているが、今後においても、研修内容の充実と多様化を図り、職員の意識改革と能力開発を積極的に推進したいと考えている。

**問** 等妙寺旧境内について

**答** 平成21年度には国指定記念講演会、昨年度には「史跡の保存整備と利活用」をテーマとしたシンポジウムと、それに合わせた史跡見学会を行った。また、史跡指定以来、近隣市町の歴史を研究されている団体や、全国の「山の寺」の研究者で組織する研究グループなど、県内外からの見学者があり、町が主催した見学会を合わせると、これまで約500名の見学者があった。

講師に関しては、その道の先生方をお願いしている。ご質問のふるさと出身の方については、町内出身の研究者についての情報の持ち合わせもなく、これまでのところお願いはしていない。

なお、これからも広く町内外の方に史跡の歴史的価値を知っていただくよう史跡の持つ魅力を発信していきたいと考えており、参道、本堂など、調査完了ごとに町の学芸員等による現地説明会などを開催するよう計画している。

**【生田夫婦岩組、天神裏手町道へのガードレール設置について】**

**問** 地元からのガードレール設置の要望に対する対応について

**答** ここは幅約3mの溪流があり暗きよを施工しているが、その谷が急激に落下しているため、町道

下は約7mの高さとなっており。その付近は道路勾配も急であるので、特に冬場の積雪時の通行は危険度が高いと思われる。

そのような現場条件であり、この路線については現在町道の改良計画もないので、特に危険性が高いと思われる約11mについてガードレールを設置して、通行の安全を図る計画である。

**【再生可能なエネルギーの普及について】**

**問** 実践へ動き始める可能性について

**答** 自然環境に恵まれた本町において、庁舎をはじめ、公共施設などに、太陽光や風力あるいは水力などの自然エネルギーを活用できないものか、検討を加えたいと考えているところである。

**問** 今後の対応について

**答** 本年度から住宅用太陽光発電システムを設置する人に対して、予算の範囲内で補助をすることとしたところである。

また、クリーンエネルギー自動車の導入として、これまでにハイブリット車3台を購入し、地球温暖化防止の啓発、普及に努めているところである。

自然に存在する貴重で潤沢な資源を活用する方策および、これ

らを活用した実現可能な補助制度の創設についても時間をかけて検討したいと考えている。また、省資源・省エネルギーの普及啓発も推進したいと考えている。

**【住宅新築・リフォーム補助金の適用について】**

**問** リフォーム補助金の対応について

**答** 平成23年度から町内に木造住宅を新築・購入しようとする場合に事業費の一部を助成する「鬼北町地域産材木造住宅建築促進事業補助金」を制度化し運用しているところである。

この補助金制度は、主要部材に50割以上の地域産材を使用し、66㎡以上の在来工法により建築される木造住宅であること、町内に事務所を有する施工業者により建築されること等の条件を満たした場合に50万円を限度として、補助金を交付するものである。

また、耐震診断において耐震工事が必要とされた一般住宅に、耐震工事に対する一定の補助金を交付するための補正予算を提案している。

地域の林業振興、建築産業の振興、定住の促進等の観点からすれば、本町においても、ご質問の主旨に沿った制度を運用していることをご理解いただけるのではないかと考えている。